

The Women's Studies Association of Japan

発行 日本女性学会
事務局 〒272-0023
千葉県市川市南八幡1-16-24
TEL 047-370-6068
FAX 047-370-5051
ホームページ
<http://www.joseigakkai-jp.org/>

学会ニュース

日本女性学会
第124号 2012年2月

*会員に送付しているペーパー版の「学会ニュース」とは、内容が一部異なります

目次

次回大会予告	1	お知らせ	3
個人研究発表・ワークショップ募集について	1	会員の著作	4
大会シンポジウム	2	研究会のご案内	5
幹事会議事録	2	第17期選挙選出幹事の選挙について	5

次回大会予告

会場：大正大学（7号館） 東京都豊島区西巣鴨3-20-1
・都営地下鉄三田線 西巣鴨駅下車 徒歩2分／埼京線 板橋駅東口下車 徒歩10分／
都電荒川線 新庚申塚駅又は庚申塚駅下車 徒歩7分

大会シンポジウム：

再考・フェミニズムと「母」——異性愛主義と「女」の分断

大会日程（予定）：1日目 6月2日（土）13時～16時30分 大会シンポジウム
（終了後、総会／DVD上映、懇親会）
2日目 6月3日（日）9時30分～15時（昼食休憩を1時間ていどはさみます）
個人研究発表、ワークショップ

個人研究発表・ワークショップ募集について

タイトルと発表の概要（200字程度）・発表のカテゴリー（個人研究発表、パネル報告、ワークショップのいずれか）・発表時に使用する機材（希望にそえない場合もあります）を記載して**3月30日（金）24時まで**に、ニュースレター担当の青山薫・西倉実季までメールでお申し込みください。**受信トラブルを避けるため、兩名にお送り願います。**

ワークショップは、参加者との協同作業でテーマを発展させていく取り組みであり、個人研究発表とは性格の異なるものです。原則として複数の発表者がひとつの分科会全体（2時間ていど）を担当していただきます。

個人研究発表はひとつの分科会で3、4の方が発表をしていただきます。この組み合わせは通常応募状況に

よって幹事会で決め司会も幹事会から出しますが、あらかじめ共通テーマの方々3名以上が集まり、共同でパネル発表に応募していただくことも可能です。その場合、公平な各発表時間の配分と質問の時間を十分とることに留意いただき、テーマ、時間配分、司会者などを申込者が決めてからご応募ください。

大学院生、非常勤講師等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生、院生、OD等、常勤職についておられない方には、学会より旅費の補助を行います（総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です）。希望される方は、報告申込の際に、「旅費補助希望」と明記してください。

大会におけるバリアフリー対応（手話通訳、文字通訳、配布物 拡大コピー希望など）のご要望をおよせください。**3月30日までに**、庶務担当 北仲千里または福嶋由里子幹事へお願いいたします。保育のご要望については、次号で詳細をごらんください。

大会シンポジウム

テーマ：再考・フェミニズムと「母」——異性愛主義と「女」の分断

シンポジスト：加納実紀代さん、松本麻里さん、水島希さん
コーディネーター：荒木菜穂、西倉実季、福嶋由里子、堀江有里

趣旨

フェミニズムには積み残してきた課題が多くある。そのひとつに「母」をめぐる事柄を挙げることができるのではないだろうか。2011年3月11日の東日本大震災以降、マスメディアにおいて、復興支援活動や放射能被曝から子を守ろうとする活動を担う女性たちの姿が「母」のイメージと強く結びつけられる機会がより多くなってきている。いままでも存在した「女=母」というイメージがより一層突きつけられるなかで、女たちのあいだに温度差や乖離、そして分断がもたらされている。

たとえば、これまでのフェミニズムのなかには、「産む性」の立場からの主張を本質主義的な「母性礼賛」と見なし、ジェンダー構造の再生産に加担する危険性をは

らんでいるとみる批判もあった。たしかに、役割として「女」に押し付けられる「母」のイメージは、異性愛主義によって構築されてきたものでもある。しかし、とりわけ、東日本大震災以降の現状に照らし合わせると、「母」の立場に依拠した主張をそのようにしか位置づけないことで、女性間にあらたな分断が生み出されているのではないだろうか。

今回のシンポジウムでは、「母」をめぐる問題に対して本質主義か否かの議論に陥りがちであったフェミニズムを批判的に検討する。そしてそれは、「母」や「女」といったカテゴリーと、個人の多様性を尊重することの矛盾について向き合いきれてこなかったという課題を、反省とともに再考する試みでもある。

お知らせ

2011年10月25日、日本女性学会第16期代表幹事・海妻径子以下幹事会有志は、下記の要望を関係各位に提出しました。

記

独立行政法人改革における国立女性教育会館の扱いに関する要望

2007年のいわゆる「事業仕分け」に際し、独立行政法人・国立女性教育会館の他機関との統合および民営化が検討されたことに対して、日本女性学会幹事会有志は行政改革担当特命担当大臣（当時）・渡辺喜美氏宛ての12月15日付要望書において、強い反対を表明して参りました。

にもかかわらずこのたび、再び国立女性教育会館の他機関との統合および民営化（NPO法人化）が行政刷新会議において検討されていることに、大きな危惧をおぼえます。

2007年の「事業仕分け」に際して、全国から反対の声が多数寄せられたことは、国立女性教育会館が創立以来30年以上の長きにわたり、女性差別撤廃、ジェンダー（男女）平等社会の実現のための情報発信と学習・活動の場として、極めて重要な役割を果たしてきたことの証左です。と同時に、女性差別撤廃条約批准国にもかかわらず女性の政治的・経済的・社会的地位の改善が遅々として進まない「人権後進国」日本の状況を、多くの方が憂慮し、国立女性教育会館にはこれまで以上の機能強化を期待こそすれ、経済効率優先の視点から安易な組織統合・機能縮小が行われジェンダー平等政策が後退することを、決して望んでいないことのあらわれではないでしょうか。

周知のとおり、日本は2009年に国連女性差別撤廃委員会より、差別撤廃の遅れを強く指摘されている状況です。国立女性教育会館のようなナショナルセンターが、ジェンダー平等政策の推進拠点として果たすべき役割は、むしろ大きくなっています。目的の異なる他組織との統合は、国際公約としても遅れの許されないジェンダー平等政策推進の、機動性を損なうこととなります。また、NPOにおいても女性が男性よりも不安定・低収入で雇用される傾向が指摘されている現状で、経済効率優先の視点から民営化（NPO法人化）を進めた場合、女性差別撤廃に携わる職員（その多くが女性です）自身が女性ゆえの不安定・低収入雇用で働くという、矛盾におちいりかねません。会館で働く専門性の高く経験の豊富な職員あればこそ、国立女性教育会館はジェンダー平等政策推進のナショナルセンターたり得ます。職員の方たちが安心して職務に従事できる環境の確保という観点の無いまま、国立女性教育会館をいわゆる単なる「ハコモノ」としてとらえ、財政削減の対象とすることには、疑問を感じざるを得ません。

以上の理由から、独立行政法人・国立女性教育会館の他機関との統合および民営化（NPO法人化）に、私たちは強く反対いたします。

以上

会員の著作

- ・ 赤阪俊一・柳谷慶子編著『ジェンダー史叢書 生活と福祉』明石書店（4800円）
- ・ 粟屋利江・松本悠子編著『ジェンダー史叢書 人の移動と文化の交差』明石書店（4800円）
- ・ 池田忍・小林緑編著『ジェンダー史叢書 視覚表象と音楽』明石書店（4800円）
- ・ 石川照子・高橋裕子編著『ジェンダー史叢書 家族と教育』明石書店（4800円）
- ・ 加藤千香子・細谷実編著『ジェンダー史叢書 暴力と戦争』明石書店（4800円）
- ・ 竹村和子・義江明子編著『ジェンダー史叢書 思想と文化』明石書店（4800円）
- ・ 長野ひろ子・松本悠子編著『ジェンダー史叢書 経済と

消費社会』明石書店（4800円）

- ・ 服藤早苗・三成美保編著『ジェンダー史叢書 権力と身体』明石書店（4800円）
- ・ 大沢真理『ジェンダー社会科学の可能性 第2巻承認と包摂へー労働と生活の保障』岩波書店（3600円）
- ・ 大沢真理『ジェンダー社会科学の可能性 第4巻公正なグローバル・コミュニティをー地球的視野の政治経済』岩波書店（3600円）
- ・ 辻村みよ子編『ジェンダー社会科学の可能性 第1巻かけがえのない個から一人権と家族をめぐる法と制度』岩波書店（3600円）
- ・ 辻村みよ子『ジェンダー社会科学の可能性 第3巻壁を超えるー政治と行政のジェンダー主流化』岩波書店（3600円）

会員の著書紹介

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介します。掲載ご希望の方は、ニュースレター担当者までご連絡ください。

- ・ 会員が執筆・編集している単行本（分担執筆含む、雑誌をのぞく）
- ・ 1年以内の発行物
- ・ ご本人の申し出があったもの
- ・ 寄贈は条件としない

ニュースレター担当

青山薫

西倉実季

お知らせ

「お知らせ」欄は幹事会および会員等からの公共性の高い情報を掲載します。

掲載希望はニュースレター担当者までご連絡ください。

ニュースレター担当

青山薫

西倉実季

会員主催研究会募集

日本女性学会は会員主催の研究会に対し以下の応募要件にしたがって補助金助成をおこなっています。

〈応募要件〉

- ・ 研究会の趣旨が女性学会の趣旨に適っているもの
- ・ 少なくとも会員に対して、公開の研究会であること
- ・ 研究会のタイトル、趣旨、企画者（会員個人・会員を含むグループ）、開催場所、開催日時、研究会のプログラム、全体の経費予算と補助希望額（2万円以内です）が決定していること（未決定部分は少ないほど良いのですが、場所・プログラム・経費については予定＝未決定の部分を含んでも結構です）
- ・ 学会のニュースレター、ウェブサイトに載せる「研

究会のお知らせ」の原稿（25字×20行前後）があること（研究会の問い合わせ先を明記する）

- ・ 研究会終了後、実施報告文を学会のニュースレターとウェブサイトを書いていただきます（補助費はこの原稿提出後に出金いたします）
- ・ 学会総会での会計報告に必要なため、支出金リストと、総額での企画者による領収書を提出すること
- ・ 申し込みは、広報期間確保のため原則として開催の3ヵ月前までに、研究会担当幹事までお願いいたします。詳細のお問い合わせも、研究会担当幹事まで。

研究会担当：堀江有里

千田有紀

研究会のご案内

2012年大会シンポジウム プレ研究会

大会シンポジウム「再考・フェミニズムと『母』——異性愛主義と『女』の分断」のパネリストにお出でいただき、シンポジウムに向けた準備の研究会を開催します。どなたでも参加できます。資料等準備の都合上、参加希望者はなるべく事前に研究会担当幹事までご連絡ください。

日時：2012年3月31日（土） 11時～13時

場所：大正大学 1号館 2階大会議室

所在地：東京都豊島区西巣鴨 3-20-1

- ・都営地下鉄三田線 西巣鴨駅下車 徒歩2分
- ・埼京線 板橋駅東口下車 徒歩10分
- ・都電荒川線 新庚申塚駅又は庚申塚駅下車 徒歩7分

詳しいアクセスは、http://www.tais.ac.jp/other/access_map/access_map.html をご覧ください。

研究会担当

堀江有里

日本女性学会 2012年度 「少額研究活動支援」対象者募集 のお知らせ

日本女性学会では、常勤ないし正規雇用契約をもたず、研究財源の確保に困難をかかえている会員の研究活動を支援することを目的に、「少額研究活動支援」を創設しました（2011年度総会承認）。要件に該当する会員を対象に、研究活動支援金を支給します。下記の通り、2012年度の支給対象者を募集します。ささやかな活動ですが、ぜひ活用ください。

記

内容 対象者の日本女性学会の趣旨に沿った活動に対し、1人あたり3万円の研究活動支援金を支給する

対象 2012年4月1日以降に常勤ないし正規雇用契約をもたない会員10名

応募要件

- (1) 前年度までの会費が納入されていること
- (2) 日本女性学会会員の会費区分6000円の者
- (3) 常勤ないし正規雇用契約下でないこと
- (4) 日本学術振興会特別研究員でないこと

応募方法 日本女性学会ウェブサイトに備える応募用紙により日本女性学会事務局宛郵送

募集締切 2012年4月30日（月）着分まで

詳細および様式 日本女性学会ウェブサイト
<http://www.joseigakkai-jp.org/>

第17期選挙選出幹事の選挙について

第16期幹事の任期満了に伴い、第17期（2012年度～2013年度任期）選挙選出幹事の選挙を、日本女性学会規約ならびに日本女性学会幹事改選選挙実施規程に基づき実施します。幹事選挙は、日本女性学会の運営を民主的かつ円滑に進めてゆくための重要な選挙です。会員の皆様すべてが滞りなく投票していただきますよう、お願いいたします。

なお、2012年2月13日付で会員名簿とともに送付いたしました「日本女性学会第17期選挙選出幹事選挙投票用紙」に印刷された会員の名前に間違いがあったため、訂正した投票用紙をすでに再送しております。

投票は、2012年2月20日付「日本女性学会第17期選挙選出幹事の訂正版選挙投票用紙の送付について」に同封いたしました、「訂正版投票用紙」によって行ってください。訂正前の投票用紙ですでに投票をされた方は、大変お手数をおかけいたしますが、「訂正版投票用紙」を使って再度投票していただけますよう重ねてお願い申し上げます。投票の重複等の問題を避けるために、**訂正前の投票用紙を用いてなされた投票は無効**とさせていただきます。

投票締切日は**3月23日（金）**で、当日到着分まで有効です。選挙運動は自由です。その他の注意事項等については、「日本女性学会第17期選挙選出幹事の訂正版選挙投票用紙の送付について」に記した要領をご参照ください。

選挙管理委員 清末愛砂

選挙管理委員 青山薫